

「PAD」を知っていますか？

PAD（末梢動脈疾患）は足や手の動脈が動脈硬化によって狭くなったり詰まったりして血液の流れが悪くなることでさまざまな症状をひき起こす病気です。

日本では「閉塞性動脈硬化症」もしくは「慢性動脈閉塞症」と呼ばれている疾患ですが、海外ではPADという疾患名が一般的です。PADは足の血管に動脈硬化が起こり、血管が細くなったり、詰まったりして、足に十分な血液が流れなくなることで発症する病気です。これにより、歩行時に足がしびれる、痛い、冷たいなどの症状が現れます。病気が進行すると、歩けなくなったり（間欠性跛行）、じっとしていても足が痛むようになっていたりします。さらに悪化すると、足に潰瘍ができたり、壊死したりすることもあり、ひどい場合は足を切断する手術しなければならないこともあります。また、動脈硬化は全身的に進行しますので、足の動脈硬化は、心臓や脳の動脈硬化にもつながり、狭心症や心筋梗塞、脳卒中などを引き起こすこともあります。

高齢になると、誰でも血管は硬くもろくなるものですが、糖尿病、高血圧、高脂血症といった生活習慣病などがあると、動脈の内側（内腔）にコレステロールがたまったり、血管に負担がかかりつづける状態になり、さらに硬くもろくなる度合いが進みます。やがて血管の内部が狭くなることで血液の流れが悪くなり、「動脈硬化症」と呼ばれる状態になります。動脈硬化症になって血液の流れが悪くなると、臓器や筋肉などが酸素不足や栄養障害を起こして傷ついてしまいます。

動脈硬化症は全身どこの動脈でも起こる可能性があり、足も例外ではありません。全身の動脈の中でも主に手足に血液を届ける動脈を「末梢動脈」と言います。この末梢動脈に動脈硬化症が生じると、手足に血行不良が起こります。その結果、しびれや痛み、間欠性跛行が悪化すると潰瘍ができたり、ひどい場合には壊死したりすることもあります。このような症状となるPADは、末梢動脈疾患（末梢血管の病気）の中で最も多いものです。

どのような人がかかりやすい？

PADは次のような人に多いといわれています。

50歳以上
男性（女性の8～9倍）
喫煙



PADの原因は？

PADの原因は動脈硬化症です。以下のような場合に、動脈硬化症の原因となりやすく、注意が必要です。



糖尿病・高血圧などの生活習慣病



肥満・運動不足



ストレス

PADの検査は？

ABI（足関節上腕血圧比）検査

ABIは、下肢動脈の狭窄・閉塞を評価する指標です。上腕と足首の血圧から算出されます。ABIは非侵襲的な検査で数値として評価できるので、PAD患者の早期発見に有用です。



両手上腕、両足首、両足指先に血圧計を巻いて、各々の血圧を測定します。
この検査は、約10分程度の検査です



ABI（足関節上腕血圧比）

$$ABI = \frac{\text{足関節最高血圧}}{\text{上腕最高血圧(左右高い方)}}$$

評価基準

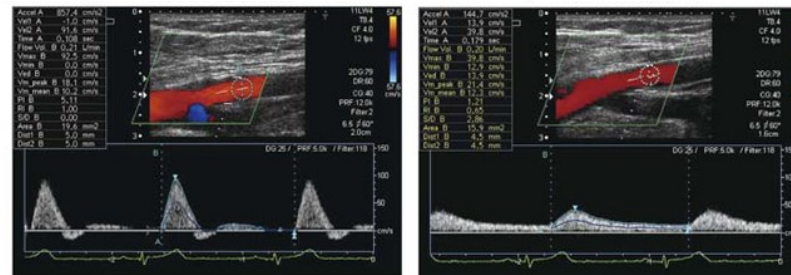
0.9未満	動脈閉塞の疑いがある
0.8未満	動脈閉塞の可能性が高い
0.5以上0.8未満	動脈閉塞が1箇所はある
0.5未満	動脈閉塞が複数箇所ある

下肢動脈超音波検査

下肢動脈に超音波をあてて、血管の状態（血管壁の石灰化やプラークによる狭窄、閉塞の確認）や血流速度の測定、血流波形の状態（ドップラー法）を確認します。この検査で、血管のどこに、血流の詰まりがあるかが、おおよそ推定できます。



超音波で確認します
(20分程度の検査です)



正常な血管のドプラ波形 血管閉塞が疑われるドプラ波形